

摺ハ抜句ニ係ラフモノ
●丁摺及景品不着之節ハ御報道ニ依テ何回ニテ
モ呈ス

●不識庵月次

●本評之部 毎月十日ノ切全二十日返草

●庵主風花雪月鳥の五に巻撰す花評三石
●賞品各秀一卷納景添へ軸金短冊庵主染筆一葉
宛人へ芭蕉翁遺墨摺物一葉宛四十五点已上花評
板草不殘景一点の第一清人公胡壽の畫庵主讀絹
地一葉第二三人畫替一葉宛本花秀逸通句銀印一
課役座通句へ石印三課摘庵號入一組平通句の月
瀬記行一組〇入花日句以下六錢三十句八錢四五
十句十錢百句十六錢 成へく小爲替にて不得郵
便切手代用也

●詠史庵主評兼題 題四句一組五錢二組八錢一
句必登錄を天地へ抜句及庵主の句及畫入半切一
葉宛余興秀一方副評を依頼す
●風景題及評者の時々新誌に廣告を〇入花四句
一組五錢二組八錢三組十錢〇其月景を有名なる
先生に畫かせ抜句を庵主揮毫秀逸の方に呈す
●本評受卷者五名副評を〇十二景毎に圖入摺物を
皆艸の人へ呈す
●附勝俳諧ハ庵主捌四句四錢互評五錢各三句吐

●余興之部

●題本評と同じ〇撰者海内有名なる三宗匠已上
●入花六句一組十錢二組十八錢
●賞品各秀一卷納及若伸先生(八十二歳の筆祖翁
之肖像其上へ祖翁の遺墨(古池や)短冊寫したる
者一葉及、軸秀一に同去人評者短一葉宛
●点ノ第一手拭二反第二三へ全壹反四五へ半反
十迄三筋十五番一筋二十番出景
●闘句評者の新誌にて廣告六番勝負二句一組廿
錢〇第一高点へ弘法大師いろは石摺横物一葉土
附へ俳號入の封皮十葉宛

●酬勞 本評十人已上取纏の方の本評百句及闘
句一組無料全五人已上取纏の方の余興
へ御出艸なくも玉吟登錄して余興一部呈す〇余
興二組已上出草の方の闘句一組無料余興五人已
上取纏の方の一組無料〇風景詠史も余興に同じ

●特評 余興出草の句及本評各九十点已上の句
を三月宛取纏(花の本芹舎宗匠)に評をこひ
●景品秀一歳時記葉艸四卷軸に弘法大師いろは摺
物一卷人へ祖翁肖像一葉抜句新誌登錄入花無料
●毎年未本評余興とも大点競を製と
●半ヶ年前金豫約方の頗引をなせし〇二十
錢已上御送金とさひ小爲替半分弊社よと出す
●本評余興 一三三三春四五月夏七八九秋十
主月冬土 但し舊曆新曆隨意

●兼題

●風景 闘句 詠史
●土月ハ 更科 鹿 日本武尊 佐倉宗五良
●十二月ハ 高砂 時雨 西行法師 秦始皇帝
●一月ハ 二見浦 初日 織田信長 清小納言
●二月ハ 和歌浦 日雪 ナホレオン 達广大帥
●三月ハ 嵐山 引鶴 千利休 コロンブス
●四月ハ 隅田川 櫻 袈裟御前 頼朝
●五月ハ 須光 時鳥 淀 君 張 良
●六月ハ 堅田 踊 楠 正成 ヒスマルク
●七月ハ 宮城野 虫 楚頂羽 日蓮上人
●八月ハ 江の島 菊 和氣清磨 伊井中將
●九月ハ 箕面 小春 大石義雄 はせを翁
●十月ハ 景詠史と四季隨意又雜にてもよし
●点取てなく記載御望の方の一旬に付五錢宛

京都下京區第十五組祇園南側町二百卅番戸

梅黄社

明治廿年 月 日 俳諧鴨東新誌十 號附錄

